



「ほっとルーム」だより

第163号 令和4年3月1日発行
いちき串木野市家庭教育支援連絡協議会
(子どもみらい課内 TEL 33-5618)

家庭教育支援事業の説明を行いました

「ほっとルーム」では、社会教育課が開設している「家庭教育講座(来年度小・中学校に入学する子どもさんを持つ保護者を対象にした講座)」の開始前に、家庭教育支援事業の説明と支援員の紹介をしました。※新型コロナウイルス感染症予防対策等により実施してない小学校もあります。

小学校入学は生活の転換期

参考文献「知っておきたい家庭教育」東京家庭教育研究所編

子どもは、小学校入学で、幼児期とはまったく違う三つの経験をします。

- ① 親から完全に離れ新しい学校生活に入る。
- ② 時間に区切られた生活に入る。
- ③ 知らない子どもたちと一緒に行動することによって、新しい社会集団の生活が始まる。



この経験は、子どもたちにとっては、身体的、精神的にも相当な重荷になります。

幼稚園や保育園で集団生活を体験していても、小学校が幼稚園や保育園と違うことを子どもたちは感じています。1年生の体と心には、まだ幼児期の特徴が残っているので、40分の授業を受けるのも、大変つらいのです。

それなのに、家に帰ると親から、「もう小学生なんだから、しっかりしないと駄目よ」「お友だちに負けないようにがんばるのよ」「遊ぶ前に勉強をしなさい」と催促されたら、子どもは息を抜くこともできず、ますます疲れてしまいます。

こうした重荷が、子どもの心のケガを生んでしまい様々な問題が現れます。親はそのところをよく理解し、子どもを受け止めてあげてください。また、生活の転換期である小学校入学は、子どもの良いところを伸ばし、悪いところは直す、いい機会でもあります。

先生が小学校1年生に、「皆さんは、1年生になったのだから、朝起きた時には、お父さんやお母さんに『おはようございます』と挨拶しましょうね」と話しました。

翌日、ひとりの女の子が、「おはようというのは嫌です」というので、先生は「なぜなの?」と聞きました。その子は、「私がいったら、お母さんが、『あら、珍しいことをするのね。雨が降るかもしれないよ』と笑ったんです。」と答えました。それ以来、女の子は「おはよう」をいわなくなったそうです。

子どものために、お母さんは「1年生になったらおりこうになったわね」といって大喜びをしなければならなかったのです。「おはよう」がいえなかった子どもの悪いところを直すチャンスをお母さん自身がつぶしてしまいました。親の何気ない言葉が、子どもに大きな影響を与えます。

中学生の精神的特徴

参考文献「知っておきたい家庭教育」東京家庭教育研究所編

☆親から離れてひとりで考えはじめる時期☆

小学生の頃までは親に依存し、何でも親にしたがう生活をしてきましたが、中学生期に入ると親から離れて自分の考えにしたがってものを見て、考える自己確立の時代になります。そのために、今までは無邪気に何でも親に話していたのが、急に無口になり、何かを考えている様子を見かけられるようになり、自分の部屋に閉じこもって、親が声をかけても、満足に返事をしなくなります。こうした態度が現れてくるのが、中学生期の精神的特徴なのです。子どもを一人前の独立した人間として認め、親から見れば、足りないだらけの子どもの行動であっても、大人になるための一里塚として、子どもを見守ってあげたいものです。

～ほっとルーム～
(子どもみらい課内)

子育ての中で、気になること等ありましたら、一人で悩まず、いつでも気軽にご相談ください。一緒に語りましょう。

TEL : 33-5654

FAX : 32-3124

令和3年度 家庭教育支援連絡協議会を開催しました

令和3年12月15日(水)に、本年度の家庭教育支援連絡協議会を開催しました。昨年度と本年度の取組状況や「家庭教育に関するアンケート」の結果を報告しました。各委員からそれぞれの立場での貴重なご意見をいただきました。

～委員さんの意見の一部～

○「ほっとルーム」だよりをプリントとメール等の二段構えでしたらどうか?

子育てアドバイス

愛のムチのつもりが、
「虐待」へとエスカレートすることがあります。

子育てには、「叩かない」「怒鳴らない」を心に決めましょう。

叩くことによって変わったと思う子どもの姿は、実は叩かれた恐怖による姿かもしれません。子どもの言い分にも、耳を傾けましょう。

親に恐怖をもった子どもは、親にSOSを伝えることができません。

子どもが、親に心配事を相談できないと、悩みなどをため込み、より大きな心配事に発展することもあります。

イライラして叱っても、
子どもの心に伝わりません。

イライラしたら、深呼吸をしたり、数を数えるなどして、クールダウンしてから子どもと話しましょう。

親自身が、SOSを出そう。

育児の負担を一人で抱え込まず、家族で分担したり、様々な支援サービスの利用を検討したり、気軽に相談できる友を持つたりするのも良いですね。

できない子は一人もいません
早くできる子と、ゆっくりできる子がいるだけです。
子どもはみんな、できるようになります。
大事なのは、自分のペースで努力するのを認めることです。
それによって能力だけでなく、自信も育つからです。

広木 克行著 「絆を深め合う道程」より

スマートフォンでも「ほっとルーム」だよりをご覧いただけます

「いちき串木野市」のLINEアカウントとのトーク画面で、

「出産・子育て」 → 「子育て」 → 「子育ての相談」 → 「ほっとルーム」

の順にタッチすると、今までの「ほっとルーム」だよりも閲覧できます。



いちき串木野市との友だち登録はこちら↑

県の相談機関

かごしま教育ホットライン24 ☎0120-783-574
24時間子どもSOSダイヤル ☎099-294-2200※携帯電話からはこちら
PTAすくすくライン(家庭教育やしつけについて) ☎0120-0-78310
☎099-251-0309